



第21回 トップセミナー

中期経営計画の理解を深める

JR九州労組は5月31日、福岡市内において第21回トップセミナーを開催した。トップセミナーは、中央本部の役員と、各地本・支部の三役を対象に、幅広い知識の獲得とレベルアップを目的として開催しているもので、当日は、計45人が参加した。

今回は講師にJR九州の古宮洋二社長を迎え、今年度からスタートする中期経営計画について説明を受けた。講義時間の半分を質疑応答に充て、組合員は熱のこもった質問を直接社長にぶつけ、古宮社長からも丁寧に回答を受けた。会社の目指すべき方向性を会社のトップの口から訊く機会はなかなか得られるものではないため、貴重な機会となった。これからも労働組合の役員として、常に会社の経営に目を向けながら、自分たちに相応しい労働条件や働きやすい制度を考えていくことが大切である。



当日の質問と回答 (抜粋)

- 【質問】個の力最大化について具体的に知りたい。3年後、5年後の将来展望を教えてください。
- 【回答】今のJR九州にとって「人づくり」が一番大事なテーマである。会社や世の中の環境が大きく変わる中で、社員が元気にいきいきと働けるようにするために、適材適所が重要であるし業務成果に対する賃金のあり方も考えていきたい。人事賃金制度の見直しについては、会社の経営体力を見ながら検討を加速させる。
- 【質問】知床遊覧船の影響について、規制緩和の弊害の部分もあるのではないかと。鉄道業界においても2000年以降規制緩和が進んでいる。JR九州としてどう考えるか。
- 【回答】鉄道においては福知山線の鉄道脱線事故以降、規制が厳しくなったが、確かに緩和してきている分野もある。規制により安全投資が必要になる可能性もある。安全を確保しつつ維持費を低減する方法は常に検討していく必要があると考えている。
- 【質問】鉄道事業に夢がない。仕事に追われ、創造性の欠如に繋がっている。社長からメッセージを発信してほしい。
- 【回答】今後の夢として「未来鉄道」というワードを使っている。大きな夢を描いて進んでいきたい。例えば、改札機を無くすのではなく、顔認証できっぷ自体を無くすというアイデアもある。そのような技術は駅ビルやオフィスでも活用できると考えている。決められたルールを守ることも大切だが、新しいことを考えることも大切だ。管理職が夢の無いことを言っていれば、社員が夢を持つことはできない。管理職がチャレンジすることで社員がチャレンジする意欲が沸く。それらが、社員の元気や採用の活性化にもつながると考えている。社員へのメッセージは、5月号の日よりでもメッセージを発信している。今後も様々な場面で行っていく。
- 【質問】西九州新幹線について、労使共にフル規格実現にむけて取り組みたい。組合としても世論形成や地域を味方にするのが大事なので、政治活用して声を作っていく。佐賀県との関係性が気になっている。
- 【回答】佐賀県知事との関係は良好だと思っている。9月23日の西九州新幹線開業をいかに成功させ、機運を醸成するかが鍵であると考えている。